

研修概要

- ・ 会派名 創政甲斐クラブ
- ・ 参加者名 内藤久歳 藤原正夫 三浦進吾 長谷部集 山本今朝雄
米山 昇 五味武彦 斉藤芳夫
- ・ 日時 平成 27 年 2 月 26 日
- ・ 研修場所、目的
 1. 帝京大学八王子キャンパス内工事作業所
東京都八王子市大塚 359 番地
 - ・ キャンパス内体育施設棟のうちプール棟天井耐震
改修補強工事、現場視察、研修
 2. 埼玉県環境整備センター（彩の国資源循環工場）
埼玉県寄居町大字三ヶ山 368 番地
 - ・ 廃棄物の最終処分（埋立処分）現地視察、研修
 - ・ 廃棄物の 100%に近いリサイクル工場、研修
（民間企業 8 社による工場団地）
- ・ 研修行程 甲斐市役所出発～中央道経由～帝京大学八王子研修～
(8:00) (10:00～11:00)
国立府中 I C～中央道、圏央道、関越道経由～花園 I C
(11:30) (12:30)
昼食～埼玉県環境整備センター研修～帰路～甲斐市役所
(13:30～16:30)
解散
(18:30)

研修内容報告 ①

主要構造体の耐震化が重要との認識は、各自治体、企業、団体も十分理解し改築や耐震補強工事を進めてきた。しかし天井などを含めた非構造部材の耐震化については、認識が甘く何の手だてもしないまま、東日本大震災が発生し避難所として活用する予定の、学校施設、特に体育館の天井などの内装が崩落し、避難所機能が果たせなくなった施設が、全国で 1,600 校も発生してしまった。文科省では災害時避難所となる学校施設における、天井耐震化対策を喫緊の課題として取り組んできていた矢先の災害発生であった。

これらを鑑みて帝京大学では、学生たちの安全、安心対策を進めるべく、文科省の指導のもと、八王子キャンパス内の体育施設のうち、屋内プールの天井を耐震化する補強改修工事を現在施工中であった。今回の会派研修先を検討中に、この情報を頂いたので会派として今後の議会活動の参考とすべく、現場視察見学、研修を行いました。

現場説明には、元請けである建設業者の作業所長をはじめ、日本耐震施工協同組合の、耐震天井診断士、並びに天井材メーカーの技術担当者の出席も頂き足場上にて、施工中の実態状況を見学し説明を伺いました。

技術的な詳細説明はなかなか難しい部分もあり、十分理解ができたかどうかはわかりませんが、私達の町では今後どのような対策が可能か、考えていくうえで大変参考になったことと思えます。

関係各位の皆様には仕事の手を止めて、貴重な時間を割いていただきご指導頂きましたこと大変申し訳なく、心より感謝申し上げます。

研修内容報告 ②

埼玉県環境整備センターは廃棄物の最終処分場として、埋立処分をし
広大なリサイクル工場団地を造る施設であります。地元中小企業などからの
廃棄物を広域的に埋め立て事業を実施している。

1期工事は完成し、延べ137.4haの造成を行い、内28.3haが埋め立て面積
であり271万トン埋め立てられているという規模でありました。

現在2期工事がおこなわれており面積15ha、容量50トンの埋め立てを行
い間もなく完成であるということでした。

すでに完成した用地には、廃棄物リサイクルの特徴的ノウハウを持った民間
企業8社が入所し、それぞれ独自に営業している工業団地になっていました。

現在平均93%のリサイクル率で、限りなく100%を目指し研究している。又
造成後も緑地の形成を行い、残地森林も多く残し森林整備を行い、間伐木材も
木材チップとして100%有効活用している、

一部企業はPFI事業者で廃棄物全般を取り扱うが、一切焼却処分を行わず
ガス化改良方式を採用し、最大2,000度で熔融を行い、スラグ、メタル、
塩カル、合成ガスなどに変換し100%リサイクルを達成している。残り7社も
独自のリサイクル方式を研究開発し、一切焼却処分を行わない資源循環型工場
であるということでした。

県はこれらの工場に用地を借地として賃貸し、25年間に62億円の地代収入
を見込んでいるとのことであった。又、環境面の配慮として地元住民の方々の
監視員による監視活動が週1回必ず行われており、各企業も最善の努力をなさ
れているとのことでありました。

わが県の明野処分場の問題を考えても、すでに平成元年からこのような広大
な計画が進められていた、先進事例を参考に対策を考えるべきであったのでは
と思わされた、今後の甲斐市の状況を考えたとき、このような事例が参考にな
るのではないかと改めて思わされた研修であった。

